

報告日 令和7年9月3日

報告回次 3日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	上毛町			代表者名	0979-72-3111
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	DX推進班	連絡先電話番号	0979-72-3112
担当者役職	主事	担当者氏名	中 亮太郎	連絡先E-mail	
住所	871-0992 福岡県上毛町垂水1321番地1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	行政DX人材育成研修（実践スキル向上）		
概要	業務改善を行うための前提となる思考能力（論理的思考等）を養い、組織全体の効率化を実現することを目的とした研修を実施				
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年8月27日	支援・助言&講演(オンライン)	14時00分	16時00分	
				活動時間（分）	120

2-2.

派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤井 靖史
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	講師は、参加者に対して事前に「自治体職員にプロジェクトマネジメント能力は必要か」という課題を提示し、研修当日に発表・意見交換を行わせることで、受講者自身が考えを整理した上で講義に臨めるよう工夫されていた。その結果、参加者の主体的な思考を促し、理解が深まる効果があった。 また、講師は自治体でのCDO等の経験を踏まえ、具体的な失敗事例や改善策を交えながら講義を進められた。専門的なプロジェクトマネジメントの知識をわかりやすく説明し、参加者の業務に即したたとえ話を交えることで、実務に直結する学びにつなげることができた。 さらに、参加者からの質問に対しても丁寧かつ確に回答され、対話を通じて理解を深める工夫が随所に見られた。講義は一方通行ではなく、参加者の意見を引き出しながら進められたため、学習効果が高く、実践的な気づきを得ることができた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	6人
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	6			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	DXを進めるには、従来の「経験や勘に頼った段取り」ではなく、やるべき作業を定義し、進捗やリスク見える化するなど、段取りを体系的に設計・管理する力が不可欠であるため。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	アドバイザーの派遣により、職員が業務や事業を「何となく進める」のではなく、やるべき作業を定義し、関係者と共有しながら進捗やリスクを体系的に管理できる力を養う。これにより、業務改善や新規施策の実行力を高め、計画を確実に成果へと結びつけられるようになる。さらに、こうした力を職員一人ひとりが身につけることで、DXの取組が持続的に進み、住民サービスの質とスピードが向上する自治体を目指す

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)		<ul style="list-style-type: none">・DX推進員向け人材育成研修(第3回)の講師として登壇。・「段取りスキル(プロジェクトマネジメント)」をテーマに講義を実施し、受講者に事前課題を提示して意見交換を行うなど、主体的な思考を促す工夫を行った。・PMBOKの知識体系を紹介し、スコープマネジメント・ステークホルダマネジメント・リスクマネジメント・調達マネジメントといった基礎的な手法を解説。・福島県のコワーキング施設や自治体での電子決裁導入など、実際の失敗事例を交えながら「施設を建てる」「ツールを導入する」ことを目的化せず、「利用され成果を生み出す状態」を成果とすべきであると指摘。・情報共有や進捗管理の重要性を強調し、ガントチャートやプロジェクト管理ツールの活用、リスクの洗い出しと共有、議事録作成の徹底など実務で使える具体的な手法を提示。・質疑応答では、進捗管理ツールの使い方やセキュリティ対策など参加者の関心に沿って、具体的かつ実践的なアドバイスをを行い、理解を深めた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)		<ul style="list-style-type: none">・業務や事業を「なんとなく進める」のではなく、やるべき作業を定義し、工程や責任を明確にする必要性について職員間で共通認識が形成された。・研修を通じて、ガントチャートやマイルストーンによる工程管理、リスクの洗い出しと共有といった具体的な手法を活用する意識が芽生えた。・「施設を建てる」「ツールを導入する」といった手段を目的化するのではなく、利用され成果を生み出す状態を成果とすべきという考え方が浸透した。・議事録の作成や情報共有ツールの整備など、日常業務に直結する改善点についても意識が高まり、実践につながる行動変容が見られた。	
具体的な成果物		最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
		途中段階であり、具体的な成果物はできていない	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)		特に無し	
アンケートの内容と分析結果		講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
		本支援は全6回にわたる連続講座として実施しているため、各回終了時点でアンケートは実施していない。最終回終了後に総括的な受講者の理解度や変化を把握する予定。	
4-3. 今後の計画		最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
		月1回程度の定例ミーティングを開催し、以下の取組を効率的に進める。 (1)dX推進員レベルアップ連続講座(～10月予定)※一部、本アドバイザー派遣制度を活用 (2)研修で身につけたスキルを活かし業務改善を実践する(11月～3月)	
4-4. 事業の最終的な目指す姿		町が抱えるさまざまな行政課題の解決に向けて、論理的思考などの思考法を養い、職員一人ひとりが自ら業務改善に取り組み、組織全体の効率化を実現できるようになることを目指す。	
5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可			
掲載許可		<input type="radio"/> 掲載可	
<div>なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください</div>			
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子			
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。			
			